



## 第 I 群の学校訪問指導より ～市町派遣の指導主事からの報告～

市町派遣の指導主事の専門性（生徒指導、特別支援教育、学力向上）等を生かした学校訪問指導を実施しました。

出雲市 小川恵美

### 「生徒指導」 ～学級集団づくり・人間関係づくりの取組～

小学校41校、中学校16校、全ての学校を訪問し、不登校児童生徒への対応について話を伺いました。訪問時は出雲市の不登校児童生徒調整員、不登校対策指導員、心理相談員等も同行し、個々のケースの具体的な支援を、学校と一緒に検討することもありました。生徒指導の視点で様々な工夫や努力の一部を紹介します。

#### 学級づくり、人間関係づくり

不登校対策は、やはり日頃の学級集団づくり・人間関係づくりが命綱だと感じる。部活動や学級の人間関係にアンテナを張り、適時に支援するセンスとパワーのある教職員がたくさんいる。

##### 〈参考となる取組例〉

- ★アンケートQ1で気になった生徒をピックアップして、学年部の先生方で意識して声がけをしたところ、2学期になって「あの子、最近表情がよくなったねえ。」と他の学年部の先生方に言われた。もちろん本人はそんなことに気づかずに、元気に登校している。
- ★学級活動で、不登校の生徒を誘って一緒に活動できそうなイベントを計画し、生徒の主体性や学級集団を育てる取組をした。不登校だった生徒は2学期に修学旅行に参加し、今では少しずつ教室に入ることができるようになった。

#### 初期対応と連携

学校に行き渋りがちの児童生徒の状態を悪化させないために、初期の個別支援や家庭支援を大切にして取り組んでいる学校もたくさんある。

- ★不登校担当教員を中心に養護教諭、空き時間の先生方でシフトを組んだり、管理職も直接対応したりするなど、全校体制を組んでいる。
- ★SCやSSWの活用、児童相談所や病院、適応指導教室などと連携しながら保護者対応を行っている。

#### 徹底した体制づくり

校内体制や市の事業を活用しながら、不登校を学校や校区全体で防止する取組もある。

- ★健康安全部を設置し、不登校児童生徒の個別対策検討や関連機関との継続した連携など、徹底して担任のサポートをしている。
- ★毎月1回、不登校生徒の個別のケース会議を実施し、対応の反省や次の作戦協議を行っている。
- ★小1プロブレム・中1ギャップ対策や出雲市保幼小中一貫教育を進めることで、1学期末、昨年比で小学生と中1では不登校児童生徒数が半減した。

雲南市 永見佐由美

### 「特別支援教育」 ～進む理念の実践化～

小学校19校、中学校7校、全ての学校を訪問（支援員・介助員配置事業に係る学校訪問を含めると、のべ50回）しました。その中から特別支援教育の視点でいくつかの学校を紹介します。

#### 授業のユニバーサルデザイン化

A中学校では、情報を整理して提示する、視覚的な手がかりを利用する等、様々な指導の工夫がなされている。校舎内、教室内の掲示物も大変きれいに整えられている。「良い環境の中で生活することが大事、教師が生徒の良いモデルになることが大事。」との校長先生の話が実に印象的であった。

#### 方向性の共有

C小学校では、学校生活におけるルールが確立されていて、全校集会活動では見事な集団行動が取れていた。「特別支援教育コーディネーターのリーダーシップの下、校内委員会が開催され、アセスメントの結果を踏まえて対応策が検討される・・・こうしたチームアプローチがしっかりなされているからだ。」と校長先生から説明があった。支援の流れがよく分かるように整理して、チャート図で示してある小学校もあった。

#### 幼・小・中の連携

B中学校では、一つのプールから幼稚園児と小学生、中学生の入り混じった声が聞こえるという、たいへん珍しい場面に遭遇した。この中学校のある地域では、幼・小・中合同の学校保健委員会や、めざす子ども像に係る同じアンケートが実施されている。このように幼から小へのつなぎ、小から中へのつなぎの部分が組織的、計画的に行われることが、支援が適切に行われることにつながると思われる。

#### 人的環境

「農」を学校教育に取り入れ、大地からのエネルギーが学校全体にあふれている感じを受けたD小学校。「特別支援学級の子どもたちが育てた畑の野菜で作りました。」と、訪問する度においしいお菓子をいただいた。学校全体で一人一人の子どもを支えていこうとする実に温かい雰囲気伝わってきた。

特別支援教育が学校教育全体にうまく溶け込んでいる、うまくなじんできている学校が着実に増えてきていることを実感しました。

奥出雲町 宮森健次

### 「学力向上・生徒指導の推進」 ～連携の工夫～

6月～7月にかけて、町内13校を教育委員会職員はもとより、教育委員、町議会議員、公民館長をはじめ社会教育関係者などにも声をかけて一緒に大勢で訪問しました。小中、小小、保幼小の連携が進んでいること、学力、表現力を伸ばすため様々な試みがなされていることを実感しました。

#### 進む連携

保幼小中連携ステップアップ事業、道徳教育総合支援事業等を活用して、各中学校区で連携が深められている。学力や生徒指導上の課題を共有し、知恵を出し合って取り組んで行こうという意欲が感じられた。

- ★今年度から中学校区ごとの合同宿泊訓練（5学年：吾妻山キャンプ）、合同修学旅行（6学年：広島方面）が実施された。他校児童との交流が促進され、中学校への期待感が高まった。
- ★町内で各学年が同じ課題に取り組む「算数コンテスト」の実施。どの学校でも子どもたちのモチベーションが非常に高く、学級・学校の枠を超えた「町のみんな」の存在がやる気を高めている。
- ★ノートの取り方やふるまいのめあての設定など多岐にわたって連携が模索されている。

#### 表現力の育成

表現力の育成を課題として取り組んでいる学校が多いのも特徴的である。小規模、複式学級を有する学校が増え、今後も児童数の減少が見込まれる中で、しっかりと自分の考えを伝えられるようにしていくにはどうしたらよいか、これは町全体の課題である。

- ★意見発表を校内で定期的に行う、地域の人に広く参加してもらう、ペアやグループによる対話や話し合いを授業に取り入れるなど、言語活動の充実を図る様々な取組が行われている。
- ★各校で著名人との出会いの場が積極的に作られており、スポーツ選手、音楽家、ダンサー、絵本作家などなど、子どもたちがプロの技を直接目にして刺激を受けている。

児童・生徒数の減少という厳しい現実がありますが、それをバネにして、外部や地域の資源を取り込んだり、連携を進めたり、地域と一体となって素材開発をしたりと、いずれの学校も活力にあふれています。

飯南町 森山雪美

### 「分かる・できる授業づくり」 ～ICTの効果的な活用が日常化～

飯南町では「分かる・できる授業」づくりに資するため、3年前に町内の全小中学校に電子黒板等を設置、今年度は教師用デジタル教科書（配信型）を導入するなど、学校におけるICT環境の整備に取り組んでいます。各学校ではICT活用の校内研修が行われ、初任者からベテランまで多くの教職員がICTを「教具の一つ」として授業の中で日常的に活用している点が、本町の特色と言えます。

#### 教師による効果的なICT活用例

授業の最初や最後におけるフラッシュ型教材の活用が挙げられる。既習事項の確認や反復学習により知識・技能の習得が図られている。全員の顔が上がり、学級の一体感や分かる喜びが生まれ、学習意欲を高めることにもつながっている。また、実物投影機や電子黒板を使った拡大提示も効果的である。何を焦点化して拡大するのか、前後の発問をどのように組み立てるのかを吟味することで、教師の説明が分かりやすくなったり、児童生徒の理解や思考が深まったりしている授業が数多く見られた。

#### 児童生徒によるICTの活用例

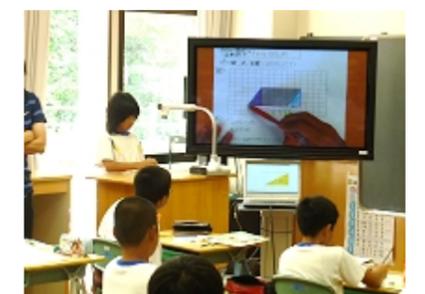
特に実物投影機を使って考えを説明する活動が積極的に行なわれている。相手に分かりやすく説明しよう、共通点や相違点を明らかにしながら話したり聞いたりしようとする姿、互いの考えを視覚的に共有した上で話し合う姿などが各教室で見られた。日頃ICTで図形を自在に動かしているからこそその発想が、子どもから生まれたという算数の授業もあった。

#### 特別支援学級でのICTの活用例

授業にタブレット型パソコンを取り入れている学校もある。学習のねらいと生徒の実態に応じたソフトウェアを選定することで、学習への興味を高めたり、学習上の困難を軽減して「できた」という自信をもたせたりできると好評である。学習活動の様子を保存しておき、保護者へ情報提供をする際に活用するなどの工夫もされている。



拡大提示されたデジタル教科書の図をもとに話し合う。（国語）



児童が実物投影機を使って自分の考えを説明する。（算数）

ICTは教師の確かな授業力を基盤とし、ねらいを明確にして日常的に活用する中でこそ効果を発揮していきます。複雑な技術は不要です。そのことを本町の教職員は証明してくださっています。